

男たちの大和 / YAMATO

2005(平成17)年11月15日鑑賞(試写会・梅田ブルク7)

★★★★



第1章

見逃した人は必読!

監督・脚本＝佐藤純彌／原作＝辺見じゅん／出演＝反町隆史／中村獅童／鈴木京香／松山ケンイチ／渡辺大／内野謙太／崎本大海／橋爪遼／山田純大／高知東生／平山広行／森宮隆／金児憲史／長嶋一茂／渡哲也／蒼井優／高畑淳子／余貴美子／池松壮亮／井川比佐志／勝野洋／本田博太郎／林隆三／寺島しのぶ／白石加代子／奥田瑛二／仲代達矢（東映配給／2005年日本映画／146分）

……遂に観た！ 尾道市にできた6億円をかけた実物大の巨大セットや呉市の「大和ミュージアム」にある10分の1の模型が目玉されているが、この映画は吉田満原作の『戦艦大和ノ最期』ではなく、辺見じゅん原作による、そのタイトルがピッタリの青春群像劇であり、人間ドラマ。自民党の新憲法草案が提示され、9条の「戦争放棄」は維持するものの、自衛軍の海外活動を容認する議論が本格的にスタートした戦後60年の今年のラストを飾るにふさわしい話題提供作だ。年配者はもちろん、この映画の主人公のような今ドキの若者たちに、自分の青春像とダブらせながら是非観てもらいたいものだが……。

理解してほしい基礎知識

この映画は、そのタイトルどおり、原作者辺見じゅん氏の視点を土台として『男たちの大和』を描くものだが、その前提として、まずなぜ日米開戦に至ったのかについての歴史的ポイントを押さえておくことが不可欠。

また、そのためには1931年9月18日の柳条湖事件以降始まり、1937年7月7日の蘆溝橋事件によって本格化した日中戦争の流れと、1941年12月8日のハワイ真珠湾への奇襲攻撃から1945年8月15日の日本敗戦までの太平洋戦争の流れのポイントをきちんと勉強する必要がある。その上で、日本はなぜ戦艦「大和」を造ったのか、そして多くの日本人にとって戦艦大和とは何だったのか、ということ

考える必要がある。

戦艦大和の建造は大まちがい……？

パンフレットの中にある、阿川弘之氏の「大和を思ふ」の中にも書かれているように、戦艦大和の建造には「これからは航空機の時代。大艦巨砲主義は時代遅れ」という反対論があった。そして歴史的にみれば、この見解が「先見の明」をもった正しいものであったことが証明されている。

また劇中、長嶋一茂扮する臼淵磐大尉が言う「日本は進歩ということを軽んじ過ぎた。私的な潔癖や徳義にこだわって、真の進歩を忘れていた」とのセリフに全く同感。

他方、莫大な税金を使って、真珠湾攻撃直後の1941年12月16日に完成した、46cm主砲9門を備える世界最大の戦艦大和はその本来の働き場所を1度も得ることなく、遂に1945年4月7日「水上特攻」というバカげた「作戦」によって東シナ海沖に沈没することになった。

このように考えると、結果的に戦艦大和の建造は大まちがいだったことは明らかだが……？

小説『戦艦大和ノ最期』の記憶

小学生の頃から軍事雑誌『丸』を読み、とくに戦争や海軍について特別な興味を持っていた私が、吉田満著の旧仮名づかいによる『戦艦大和ノ最期』を読んだのはたしか中学1年生のとき。この本の中には、大和の出撃から沈没に至るまでの経緯が克明に記されており、その迫力とリアリティにビックリしたことは今でもよく覚えている。

そしてもう1つ、大学に入り学生運動をともに頑張っていた友人F君との議論の中で、戦艦大和の話題に及んだことがあった。その時に出したのが、この『戦艦大和ノ最期』という本の話題。ところが驚いたことに、このF君はこの本のことを「戦艦大和」の「さいき」とのたまっていた……？

そこで、「お前何を言っているんだ。本のタイトルも知らないのか！」という低レベルの議論になったのだが、ここで気がついたのは、私は誰でも知っている

と思っていたこの本のことを、あの当時の普通の大学生は知らない人がたくさんいたということだ。したがって今の大学生の99%は、この本を読んだことがないのはもちろん、存在することすら知らないのでは……？

『戦艦大和ノ最期』VS『決定版 男たちの大和』

これに対して、この映画の原作となった辺見じゅん原作の『決定版 男たちの大和』は、戦艦大和誕生の時代背景と大和の最期の姿を描くものだが、その内容は歴史小説や実況中継ではなく、大和の乗組員となった若者たちの生き方を中心にした青春群像劇。

その若者たちの代表は、下士官に属する二等兵曹の内田守（中村獅童）、森脇庄八（反町隆史）、唐木正雄（山田純大）の3人と、神尾克己（松山ケンイチ）、西哲也（内野謙太）を代表とする年齢16歳程度の海軍特別年少兵たち。

辺見じゅん氏がこの小説を書くにあたって膨大な取材をしたことは当然で、それなりのモデル像があるのかもしれないが、もちろん彼らはすべて物語上設定された架空の人物。彼ら若者たちの戦艦大和への憧れと戦争や国への想い、そして他方で、愛する家族や自分の生き方についての想いが、この映画のテーマ。

さて、今どきの若者たちは、60年前の彼らの生き方を観てどのように反応するのだろうか……？

解説と上層部の姿は大胆にカット！

真珠湾の奇襲作戦に成功した日本軍は、以降しばらくは有利な戦いを展開したが、1942年6月5日のミッドウェー海戦の敗退によって戦局は転換し、以降ジリ貧状態となって玉砕が相次いだうえ、ついに1945年3月10日には東京大空襲が……。そんな中で日本軍が採用したのが、神風特別攻撃隊をはじめとする特攻作戦で、遂に4月5日には大和に対して水上特別攻撃の命令が下された。この映画では、真珠湾攻撃以降の戦局の移り変わりは当時のニュース映像を使って、必要最小限の解説にとどめている。また、無謀な水上特攻「作戦」を伝える草鹿龍之介参謀長（林隆三）、第二艦隊司令長官伊藤整一（渡哲也）、そして「大和」の五代目艦長有賀幸作（奥田瑛二）を中心とする海軍上層部のやりとりも、必要最小

限度に抑えている。私はこれを大成功とみたが、さてあなたは……？

若者を取り巻く女性たち

これに対して、若者たちの生き方を描くうえで不可欠な、母親や恋人たち、女優陣が多数登場して大活躍……。神尾の母を白石加代子、西の母を余貴美子、常田の母を高畑淳子が演じ、それぞれ涙を誘うストーリーを組み立てている……。また、内田とその恋人である芸者（寺島しのぶ）との出撃前の一夜の過ごし方は豪快……。女優陣一番の出色は何といっても神尾の恋人の野崎妙子で、大和沈没の後、広島原爆投下へとつながる若い恋人同士の悲劇を、蒼井優が実にみずみずしく熱演している。

「2プラス1」による印象的なプロローグとエピローグ

映画の冒頭は、鹿児島県の枕崎市にやってきた1人の女性が北緯30度43分、東経128度4分の地点に船を出してくれと頼み込むシーンからスタートする。

この女性こそ、敗戦後生き残った内田守の養女となった内田真貴子（鈴木京香）。そしてこの真貴子をオンボロ船に乗せて目的地に向かうのが、これも生き残り、今や老齢となった神尾克己（仲代達矢）とまだ15歳の明日香丸の船員前園敦（池松壮亮）。プロローグではこの3人が牽引者となってこの物語を引っ張っていき、エピローグでは再びこの3人が登場して感動的なフィナーレへ……。

この芸達者な2人と日本の将来を担う若者の、「2プラス1」にも要注目だ。

巨大セットとミニチュアセット

戦後60年の今年の最後を飾る「戦争モノ」として早くからこの映画は注目されていたが、それを盛りあげたのが、第1に尾道市に建造された戦艦大和の実物大のセット。これは、CGではその「質感」をスクリーン上に表現することが難しいため、建造費6億円をかけて艦首から艦橋にかけての190m、約3分の2相当分を現実に建造したもの。これを知った、日本の軍国主義化を警戒する隣国の中国では、「日本が再び戦艦大和を建造！」と報道した、とかしらないか……。この巨大セットは当然ながらこの映画のリアリティに大きな貢献を……。

第2に有名になったのは、呉市にある通称「大和ミュージアム」内にある、大和の10分の1のミニチュアセット。この「大和ミュージアム」は大人気で、その見学客が去る11月5日に100万人を突破したことが新聞報道された。私は、来たる11月23日に、両者を見学する予定だが、この「大和」の巨大セットとミニチュアセットが12月17日公開のこの映画を大いに盛りあげたことは確実。

東映と角川プロデューサーの思惑は……？

興行不振が続くハリウッド映画に対して、日本映画は最近好調。その先頭を走るのは東宝で、次々とヒット作を連発している。東宝に対して大きく遅れをとっている松竹や東映等は巻き返しに懸命だが、東映は今年冒頭の『北の零年』（05年）に続いて、現在この『男たちの大和／YAMATO』に全力投入中。製作記者発表で、プロデューサーの角川春樹氏は、1000万人動員を豪語したが、それが実現すると興行収入は約100億円！ 総製作費が20億円だからその半分の50億円でも大成功となるが、さてその思惑は……？

長渕剛が歌う主題歌は？

この映画の主題歌をつくったのは長渕剛。その1つ『CLOSE YOUR EYES』を私はいち早くパソコンでiPodに入力して聴いていたが、2時間26分という長編映画のエンドロールが流れる中、大迫力の劇場内で聴くとさすがに名曲。パンフレットによると、彼は「それでも この国を たまらなく 愛しているから もう一度 生まれ変わったら あなたを決して 離しはしない」というフレーズが出てきた後、『CLOSE YOUR EYES』という曲をアツという間に完成したとのこと。この歌詞を、「愛国教育の復活」とみるか、それとも「若者の熱き想い」とみるかは人それぞれの価値判断……。

彼自身は「究極のラブソング」と述べているが、私には「この国」という太い幹が存在している点で、彼のヒット曲である『とんぼ』や『乾杯』とは全く異質のものと考えている。長渕流の歌い回しは難しいが、メロディは素直で覚えやすいもの。今井美樹が歌う、米倉涼子主演の今年の人気ドラマ『女系家族』の主題歌である、『愛の詩』を既に完璧にマスターした今、年末の忘年会用として、

きっちりとマスターしておかなければ……。

迫力ある戦闘シーンから何を考える？

この映画後半のハイライトは、護衛戦闘機なしという丸裸状態で沖縄に進む大和に対して群がってくるアメリカの爆撃機・雷撃機と、主砲・副砲・高角砲・機銃で対抗する大和乗組員たちの総力を結集した奮闘ぶりだが、その結果はミエミエ……？ 長々と続くこの迫力ある戦闘シーンを観ながら、いかにこの水上特攻作戦が虚しいものであったか、そしてそのような意思決定を下した大日本帝国の意思決定システムがいかに狂っていたのか、と考えたのは私1人ではないはず……。そうであれば、大和沈没から60年と半年を経た今、この映画が私たちの国の意思決定システムが正常に機能しているのかどうかを考えるきっかけになれば、すばらしいもの。戦艦大和を懐かしく思い出し、ある種の感慨にふける年配者だけではなく、今を生きるこの大和乗組員たちと同じ20歳前後の若者たちに、そんなことを感じ、考えてもらいたいと思うのだが……？

2005(平成17)年11月16日記

※本作品は産経新聞2005(平成17)年12月9日付「That's なにわのエンタメ」でも紹介しました(本書64頁に記事転載あり)。

ミニコラム

いま話題の愛国心、SHOW - HEY はこう考える

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する……」。これは06年4月、自民党と公明党が教育基本法に盛り込むべき「愛国心」について、「互譲」の結果合意した表現。学生運動あがりで団塊世代の私は、もともと「愛国心」という言葉は大キライ。ところが都市問題に首を突っ込み、大学での講義を始めてからは、若者たちに対して「この国をど

うすべきか」を訴え続けている。こんな私はホントは愛国者……？ 「公」が後退し、「個」が優先している姿が目立つ昨今の日本では、その構造改革と国民の意識改革が焦眉の課題。そんな中「愛国心」の議論も結構だが、その前提となる「個と公」の議論を尽くすことが大切では……？

2006(平成18)年4月19日記